



豊玉二中だより

令和3年度 第9号
発行日 12月21日(火)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

感謝する12月に

校長 神山 信次郎

2021年もあと10日を残すのみとなりました。厳しい年であったとはいえ、多くの若者の活躍が記憶に残る1年でした。今年の世相を表す漢字は『金』。オリンピック・パラリンピックでの伊藤美誠・西谷椋選手の活躍は言うまでもなく、野球では大谷翔平、ゴルフでは松山英樹、また、将棋では藤井聡太さんと各界で若者が素晴らしい金字塔をうちたてた1年でもありました。皆さんは『光陰矢のごとし』という言葉がありますが、知っていますか。これは、月日が早く、過ぎることの例えによく使われます。皆さんは、この1年間は早かったと感じたでしょうか？それとも、遅く感じたでしょうか？ひとりひとりの1年は千差万別、感じ方も違ってあたりまえだと思います。そこで、1年の締めくくりである12月に、次にくる新しい年を良いものにするために、ひとりひとりに確かにあったこの1年をゆっくり振り返ってみましょう。

家庭では、1年間の出来事などを話し合う機会があるのではないのでしょうか。家族の一員として家庭でゆっくり会話して、自分を見つめなおしてみるのも良い機会だと思います。

学校でも、学年や学級で、学習面や生活面を中心に反省し、振り返る機会があります。中学生としての自分をぜひ見直してください。良かったことも、悪かったことも、楽しかったことも、叱られたことも、今年の自分であり、今の自分です。自分行動をしっかり振り返り、来年の自分はどうするか立ち止まって考えてみましょう。

その上で、最も大切にしてほしいことがあります。それは、今年1年間無事過ごすことができたことへの「感謝」の気持ちをもつことです。お世話になった家族や友達・学校の先生や主事さん方・地域の方など、人への感謝はもちろんですが、家庭生活や学校生活を支えてくれたすべてのものへのありがたみを思い起こしてみましょう。例えば、学校では、校舎であり、教室であり、机であり、教科書であり……。家庭でも同じように考えてみると、自分の身の回りすべてのものがその対象になるはずですが、人にやってもらって当たり前、そこにあって当たり前と忘れてしまいがちですが、実はそうではないことに気がつきませんか？何事も同じですが、当たり前になってしまうと感謝の気持ちを忘れてしまうのが、私たち人間です。12月は1年間の締めくくりとして、あらゆるものに「感謝する月」としたいものです。

～保護者の皆様へ～

先月お渡ししました「学校評価アンケート」にご協力いただきましてありがとうございました。お陰様で全校生徒の約93%に当たる方からご回答いただきました。これから集計を行い結果がまとまりましたら皆様にご報告致します。また、生徒へのアンケートも実施しておりますので、併せてご連絡いたします。

皆様からいただきました貴重なご意見を参考に、次年度の教育計画に生かし豊玉二中の教育活動を一層充実させたいと思います。